



UAゼンセン 安全衛生トピック

発行：UAゼンセン
労働条件局
(2024年11月1日)

2025年度標語

気付こう自分目線の思い込み、伝えよう相手目線の思いやり

11月度標語

気を抜くな！慣れと過信は事故の元 みんなで確認 確実に！

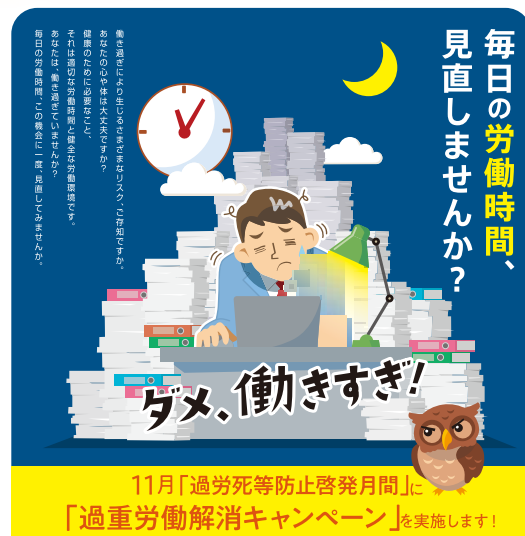
過労死等防止啓発月間（厚生労働省）

厚生労働省では、11月を「過労死等防止啓発月間」と定めて、過労死等をなくするために各都道府県にて「過労死等防止対策推進シンポジウム」や「過重労働解消キャンペーン」として、長時間労働の削減や賃金不払残業の解消などに向けた重点的な監督指導やセミナーの開催等の取り組みを行います。この月間は、「過労死等防止対策推進法」に基づくもので、過労死等を防止することの重要性について国民の自覚を促し、関心と理解を深めることを目的に実施しています。

この機会に、安全衛生委員会や職場アンケートなどを通じて職場の実態を把握し、長時間労働是正や年次有給休暇取得率向上等の取り組みを進め、職場環境の改善につなげていきましょう。

※「過労死等防止対策推進シンポジウム」47都道府県48会場にて実施されます！

<https://www.mhlw.go.jp/karoshi-symposium/>



【過労死防止に関する国の目標】

過労死等防止のための対策に関する大綱の数値目標（R6.8月変更）

過労死をゼロとすることを目指し、以下の目標を設定しています。

◎過労働時間40時間以上の雇用者のうち、過労働時間60時間以上の雇用者の割合を5%以下（2028年まで）

◎勤務間インターバル制度について、労働者数30人以上の企業のうち、

(1)制度を知らなかった企業割合を5%未満（2028年まで）

(2)制度を導入している企業割合を15%以上（2028年まで）

特に、勤務間インターバル制度の導入率が低い中小企業への導入に向けた取り組みを推進する。

◎年次有給休暇の取得率を70%以上（2028年まで）

◎メンタルヘルス対策に取り組む事業場の割合を80%以上（2027年まで）

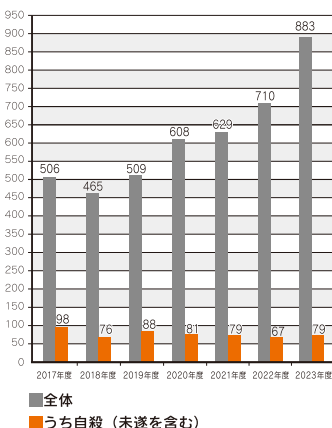
◎使用する労働者数50人未満の小規模事業場におけるストレスチェック実施の割合を50%以上（2027年まで）

◎自分の仕事や職業生活に関することで強い不安、悩み又はストレスがあるとする労働者の割合を50%未満（2027年まで）

【過労死の定義】

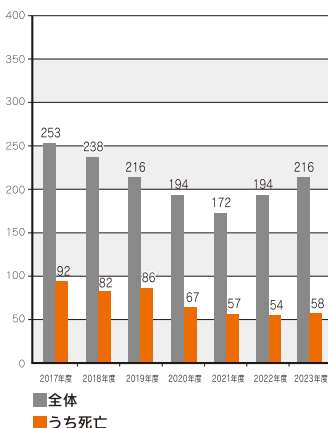
- ・業務における過重な負荷による脳血管疾患や心臓疾患を原因とする死亡
- ・業務における強い心理的負荷による精神障害を原因とする自殺による死亡
- ・死亡には至らないが、これらの脳血管疾患・心臓疾患、精神障害

■精神障害に係る労災認定件数の推移



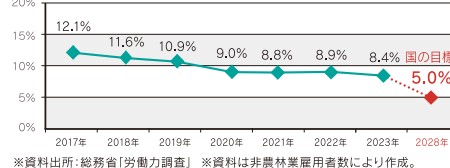
注）労災認定件数は、当該年度内に「業務上」と認定した件数で、当該年度以前に請求があったものを含む

■脳・心臓疾患に係る労災認定件数の推移



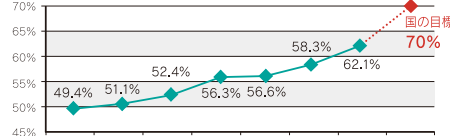
注）労災認定件数は、当該年度内に「業務上」と認定した件数で、当該年度以前に請求があったものを含む

■過労働時間40時間以上の雇用者のうち、過労働時間60時間以上の雇用者の割合の推移



※資料出所：総務省「労働力調査」 ※資料は非農林業雇用者数により作成。

■年次有給休暇の取得率の推移



※資料出所：厚生労働省「就労条件総合調査」

過重労働解消のためのセミナーでは、過重労働防止に関連する基本ルール・裁判例の解説・企業の事例紹介等の「実務的に使える知識」を無料で解説します。全国22ヶ所の現地開催とオンライン開催の2通りから選択できますので、是非、参照してみてください。

※「過重労働解消キャンペーン特設ページ」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/roudoukijun/campaign_00004.html



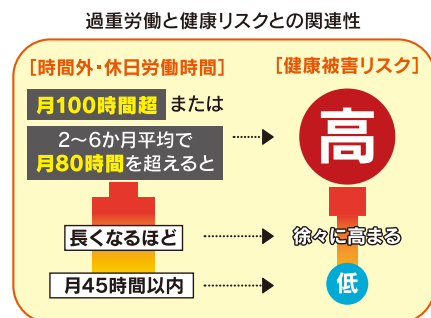
知っていますか？

労働時間の現状をみると、週の労働時間が60時間以上の労働者の割合は近年低下傾向であるものの、労働者全体の5%以上となっており、未だ長時間労働の実態がみられます。また、脳・心臓疾患が業務上によるものと認められた労災支給決定件数についても、依然として高い水準で推移しています。近年では、仕事上の強いストレスが原因となっておりうつ病などの精神障害を発病し、それが労災と認められる件数も年々増加しています。

長時間労働が健康に与える影響は？

長時間にわたる過重な労働は疲労の蓄積をもたらす最も重要な要因です。具体的には、時間外・休日労働が月45時間を超えて長くなるほど、業務と脳・心臓疾患の発症との関連性が強まります。

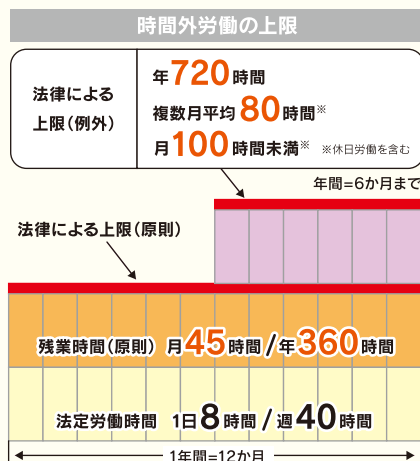
(右の図は、労災補償に係る脳・心臓疾患の労災認定基準の考え方の基礎となった医学的検討結果を踏まえたものです。)



過重労働による健康障害を防止するために

時間外・休日労働を削減しましょう

- 労働基準法で定められている時間外労働の上限規制(右図参照)は必ず守ること
- 時間外労働は本来、臨時的な場合にのみ行われるものです。時間外・休日労働を行わせる場合の労使協定(36協定)の締結に当たっては、その内容を労働組合としても精査すること



年次有給休暇の取得をしましょう

- 年次有給休暇を確実の取得させるため、年5日については時季を定めて与えること(対象:年次有給休暇が年10日以上付与される者)
- 年次有給休暇の計画的付与と制度の活用や休暇を取得しやすい職場環境の整備に取り組むこと

有給休暇



	2022年	2023年	2022年	2023年	2022年	2023年
	時間外労働時間		有給取得率		年間総労働時間	
製造産業部門	162時間	168時間	75%	81%	1,887時間	1,888時間
流通部門	143時間	139時間	59%	59%	2,038時間	2,033時間
総合サービス部門	196時間	213時間	61%	63%	2,059時間	2,103時間
UAゼンセン	154時間	155時間	63%	66%	2,007時間	2,007時間

2023-2024 UAゼンセン労働条件実態調査(加重平均)

■2023-2024 UAゼンセン労働条件実態調査(加重平均)

UAゼンセンにおける時間外労働・有給取得率・年間総労働時間の実態調査結果です。有給取得率は向上したものの、その他の項目では傾向に大きな変化はありません。引き続き労働時間削減に向けた取り組みの強化を図ります。

UAゼンセンでは、臨床心理士による「こころのカウンセリングサービス(メール相談)」を外部機関と提携して開設しています。組合員の皆さんへの周知をお願いします。

UAゼンセン「こころのカウンセリングサービス」 <https://tms-soudan.com/uazensen/>



2024年度 インダストリアル・JAF 安全対策研修会

日時 9月27日(金) 12:40～16:30 場所 TOYO TIRES(株)桑名工場

目的 インダストリアル・グローバルユニオン本部で実施する安全に関するキャンペーン
①Right to know 安全について知る権利
②Right to act 危険な作業を拒否する権利
③Right to participate 安全会議に参加する権利の実施
に呼応し、JAF構成組織の職場を訪問し、現場視察等を通して安全・環境 対策意識の向上理解を促進する



▲TOYO TIRES 桑名工場

TOYO TIRESにおける安全な職場づくりの推進と徹底

- ハード面／危険源のリスク評価を行い、設備の安全基準にもとづいた危険源の排除、囲い込みやインターロックなどの安全対策
- ソフト面／ハード対策後に残る「残留リスク」の可視化に努め、高残留リスクの表示や作業標準による管理、「止める・呼ぶ・待つ」活動、指差呼称活動や危険予知(KY)活動、小集団活動(少人数グループによる自主的な改善活動)等を通じたリスク管理の徹底
- 階層別安全教育体系に沿って教育訓練を実施しており、特に、KYトレーニングと体感教育を強化しており、そのための訓練場として、体感教育機を使って設備の危険性を体感することで、ルールに従って作業することの重要性を学ぶ「安全KY体感道場」の設置を進め2020年末時点で7事業所に設置している



▲安全危険予知体感道場
(指差し確認訓練機)



▲巻き込まれ事故を体感する設備



「TOYO TIRESにおけるSTOP6重災を防ぐ18の鉄則」

[Actuator] 動力接まれ/巻き込まれ災害を防ぐ鉄則			[Block heavy objects] 重量物災害を防ぐ鉄則		
① 災害リスクのある機械は柵・カバーで囲う	② 人は、機内に入る場合「正しく止める」 ・ロックアウトで第3者起動を防止する	③ 機械は、人が止め忘れても「ボリヨケ」で止まるようにする ・止められる設備にする	④ 「低く保管、低く搬送」 でも高く搬送していたから動かした	⑤ 工事計画で転倒、横振れ防止を確認	⑥ 吊り荷、移動中の重量物には近づかない
[Car] フォークリフト災害を防ぐ鉄則			[Drop] 墜落/転落災害を防ぐ鉄則		
⑦ 「歩車分離」 走行域 作業域	⑧ バック時は毎回後方確認 ・シートベルトとヘルメット着用	⑨ 指定経路以外を走行しない 運行計画で安全確認	⑩ 高所では「常に安全帯を連結」 ハーネス型安全帯 安全フック	⑪ 計画外の作業はしない 高所に上がる指示をしていないのに...	⑫ 工事計画で墜落防止を確認 ・作業前、2時間おき、場面変化でKY
[Electric shock] 感電災害を防ぐ鉄則			[Fire] 熱災害を防ぐ鉄則 - ガス爆発防止 -		
⑬ 「電源を遮断し自らロックアウト」	⑭ 自ら検電器で確認	⑮ 絶縁用保護具を着用	⑯ 「着火前にフレイージ」(換気)	⑰ 失火時はガス供給を自動遮断させる 2重の安全遮断弁	⑱ ガス漏れチェックを行い、発見時は正しく処置



参加者

組織名	人数
UAゼンセン	3名
電力総連	3名
JEC連合	3名
ゴム連合	6名
紙パ連合	2名
全国ガス	2名
化労研	3名
金属労協/JCM	3名
インダストリアル・JAF	2名
計	27名

UAゼンセン加盟組合での重大災害発生状況 ※2024年10月末時点

死亡災害				火災・爆発事故	
事故の型	件数	死亡者	負傷者	件数	負傷者
合計	1件	1名	0名	0件	0名
転落	1件	1名	0名		
はさまれ・まきこまれ	0件	0名	0名		
火災・爆発	0件	0名	0名		

(注) 1 2024年9月19日から2024年10月31日までにUAゼンセン本部へ報告があったもの。 2 「火災・爆発事故」は死亡者のない事故の件数と負傷者数。

厚生労働省「労働災害発生状況」 ※2024年10月7日 現在

業種	2024年(1月～9月)		2023年(1月～9月)		対2023年比較	
	死傷者数(人)	構成比(%)	死傷者数(人)	構成比(%)	増減数(人)	増減数(%)
全産業	88,421	100	87,761	100	660	0.8
製造業	17,747	20.1	17,950	20.5	-203	-1.1
鉱業	135	0.2	133	0.2	2	1.5
建設業	9,176	10.4	9,543	10.9	-367	-3.8
交通運輸事業陸上	2,021	2.3	2,014	2.3	7	0.3
貨物運送事業	10,993	12.4	10,878	12.4	115	1.1
港湾運送業	232	0.3	223	0.3	9	4
林業	805	0.9	784	0.9	21	2.7
農業、畜産・水産業	1,975	2.2	2,006	2.3	-31	-1.5
第三次産業	45,337	51.3	44,230	50.4	1,107	2.5
(第三次産業内訳)						
第三次産業	45,337	100	44,230	100	1,107	2.5
商業	14,213	31.3	13,961	31.6	252	1.8
うち小売業	10,711	—	10,402	—	309	3
金融・広告	743	1.6	724	1.6	19	2.6
通信	1,748	3.9	1,562	3.5	186	11.9
保健衛生業	11,465	25.3	11,674	26.4	-209	-1.8
うち社会福祉施設	8,602	—	8,668	—	-66	-0.8
接客・娯楽	6,600	14.6	6,100	13.8	500	8.2
うち飲食店	3,826	—	3,602	—	224	6.2
清掃・と畜	4,753	10.5	4,460	10.1	293	6.6
警備業	1,390	3.1	1,396	3.2	-6	-0.4
その他	4,425	9.8	4,353	9.8	72	1.7

(注) 1 2024年1月1日から2024年9月30日までに発生した労働災害について、2024年9月30日までに報告があったもの。
2 死傷者数は死亡災害または休業4日以上の死傷災害に被災した人の合計数。
3 労働者死傷病報告より作成したもの。
4 「陸上貨物運送事業」は、道路貨物運送事業と陸上貨物取扱業の合計値。
5 「その他」は教育研究、映画演劇業等の合計値である

11月の安全衛生行事

1日～30日	過労死等防止啓発月間(厚生労働省) 特定自主検査強調月間((公社)建設荷役車両安全技術協会) 職業能力開発促進月間(厚生労働省)、ゆとり創造月間(厚生労働省) 製品安全総点検月間(経済産業省)
5日	津波防災の日(厚生労働省)
9日～15日	秋季全国火災予防運動(総務省・消防庁)
24日～30日	医療安全推進週間(厚生労働省)

UAゼンセン 2025年度 秋の安全衛生担当者学習会(再案内)

日 時		会 場	定 員
11月20日(水)	13:30 ～ 16:30	UAゼンセン本部会館 2階大会議室	40名
		Web配信	100名
I. 健康経営の推進について(仮題) 講師:経済産業省商務・サービスグループヘルスケア産業課			
II. 最強戦略としての健康経営～健康経営の取り組み手法、労働組合の関わり方～(仮題) 講師:ビューティー&ウェルネス専門職大学専任教授 新井 卓二氏			
Ⅲ. 加盟組合における事例紹介			